

佐屋小学校老朽化対策基本構想

愛西市教育委員会

2025年12月

目次

1.	本基本構想の背景と目的.....	1
2.	与条件の整理.....	2
2-1.	佐屋小学校の概要.....	2
(1)	施設概要.....	2
(2)	通学区域.....	5
(3)	児童数・学級数の推移.....	5
(4)	周辺状況.....	6
(5)	現況写真.....	7
(6)	主な工事履歴.....	10
2-2.	施設整備に係る条件整理.....	11
(1)	敷地概要.....	11
(2)	施設の老朽化状況.....	12
(3)	現施設の課題.....	16
3.	建築コンセプトの検討.....	19
3-1.	学校施設に関する上位計画.....	19
(1)	新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（文部科学省）.....	19
(2)	2050年カーボンニュートラルの実施に資する学校施設のZEB化の推進について」（文部科学省）.....	19
3-2.	佐屋小学校の教育目標等.....	20
3-3.	佐屋小学校準備委員会の設置および教職員アンケートの実施.....	21
(1)	佐屋小学校準備委員会.....	21
(2)	教職員アンケート.....	22
3-4.	建築コンセプト.....	23
4.	基本方針の検討.....	24
4-1.	検討方針.....	24
4-2.	改築・長寿命化改修の比較.....	24
(1)	改築・長寿命化改修の特徴.....	24
(2)	改築・長寿命化改修の比較.....	25
4-3.	佐屋小学校準備委員会における検討.....	26
4-4.	基本方針.....	27

【参考資料】

■教職員アンケート結果

1. 本基本構想の背景と目的

全国的に少子化が進行する中、愛西市でも児童生徒数は年々減少傾向にあり、多くの小中学校で小規模化が進んでいるのが現状です。愛西市の人口の将来推計では、今後も少子化の進行は避けられず、小中学校の小規模校のさらなる増加が進むことが予想されます。また、愛西市の小中学校は老朽化が深刻化しており、今後学校運営に支障を来すとともに学校生活の安全性にも影響を及ぼすおそれがあります。現状のままだと将来的に、教育環境への様々な課題が生じることが懸念されています。

各学校で教育課程を編制する際の基準となる学習指導要領は、昭和33年に定められ、その後、ほぼ10年毎に改訂されています。小学校の学習指導要領は、平成29年3月に改訂され、これまで大切にされてきた、子どもの「生きる力」を育むため、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学びの実現（アクティブ・ラーニング）」の視点からの授業改善が盛り込まれています。また、令和3年1月の中央教育審議会で、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を『令和の日本型学校教育』とし、その姿を「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」としています。これらの実現のため、ICT環境の整備や多様な学習展開に対応できる多目的スペースの整備が求められています。さらに、インクルーシブ教育システムの構築や合理的配慮の基礎となる環境整備（バリアフリー化）や有事の際の避難所としての防災機能、学校における働き方改革の推進、脱炭素社会の実現に貢献する施設整備など、学校施設に求められる機能は多岐に渡ります。

愛西市では、子どもたちにとってより良い教育環境を整えるため、取り巻く環境の変化等を踏まえつつ、将来を見通した学校統廃合等の具体的施策を示すことを目的として令和6年3月に「愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策基本計画」を策定しました。この計画の具体的施策として、佐屋小学校は老朽化対策を実施することとなりました。

本基本構想は施設の老朽化状況やこれからの学校施設に必要な機能整理を行い、老朽化対策の基本的な方向性を示すことを目的とします。

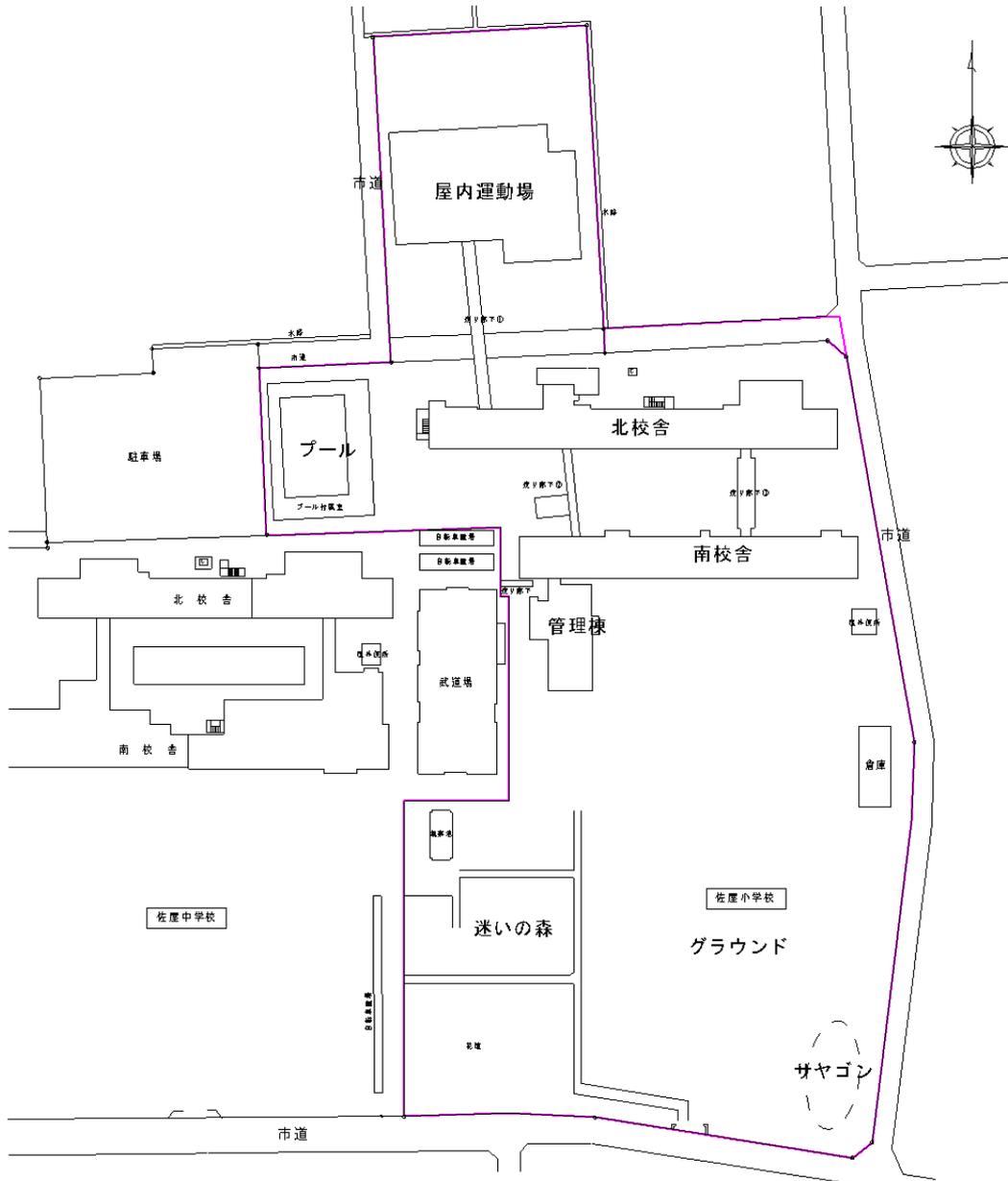
2. 与条件の整理

2-1. 佐屋小学校の概要

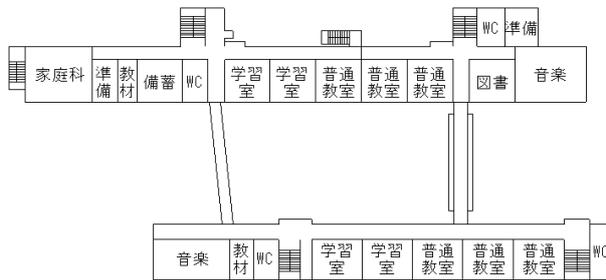
(1) 施設概要

所在地	愛西市須依町東田面 17 番地					
敷地面積	23,581 m ²					
施設内容	建物敷地 14,183 m ² 、運動場用地 9,398 m ²					
延床面積	校舎 7,033 m ² 、屋内運動場 1,198 m ²					
施設	棟別	棟	建築年	面積 (m ²)	構造	階数
	北校舎	東棟	昭和 53 年	1,498	RC	3
		中棟	昭和 48 年	1,888	RC	3
		西棟	昭和 48 年	159	RC	3
	南校舎	東棟	昭和 40 年	1,113	RC	3
		中棟	昭和 44 年	744	RC	3
		西棟	昭和 46 年	675	RC	3
		南棟	昭和 57 年	324	RC	1
	体育館		昭和 55 年	1,198	RC	1

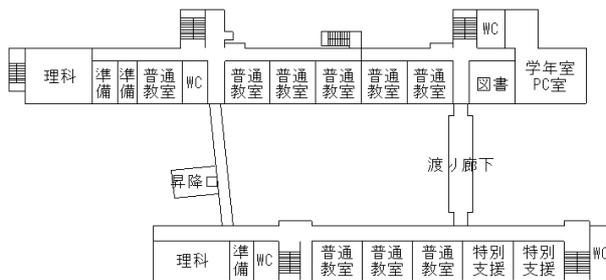
校舎配置図



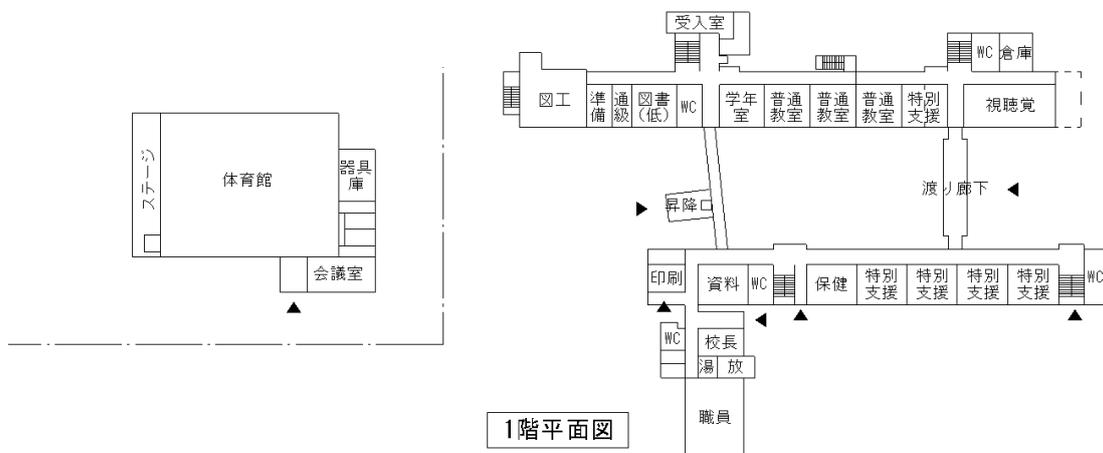
校舎平面図 (令和7年度時点)



3階平面図

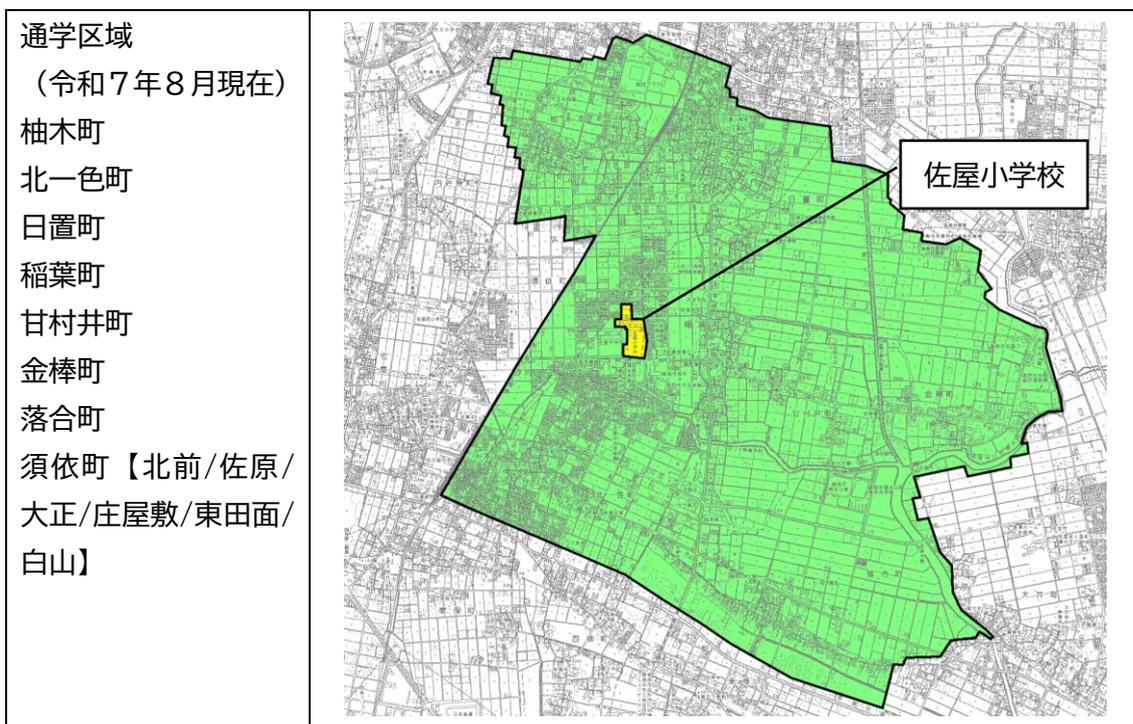


2階平面図



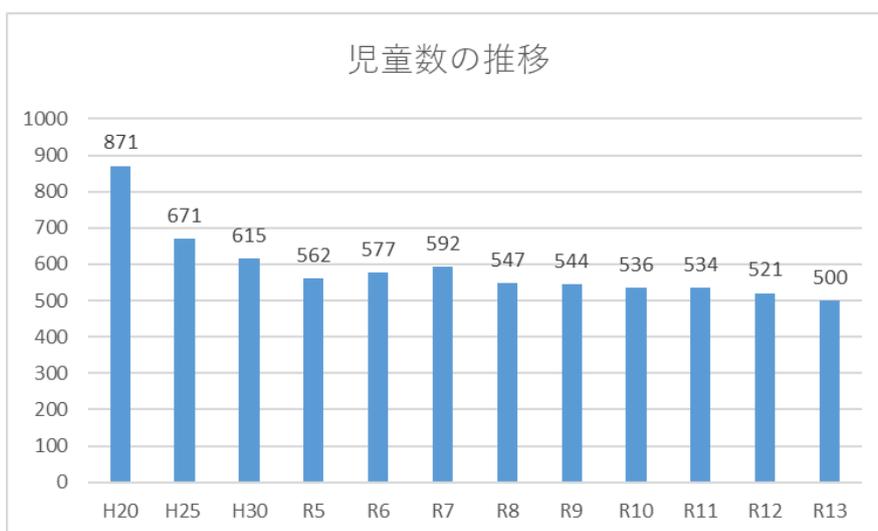
1階平面図

(2) 通学区域



(3) 児童数・学級数の推移

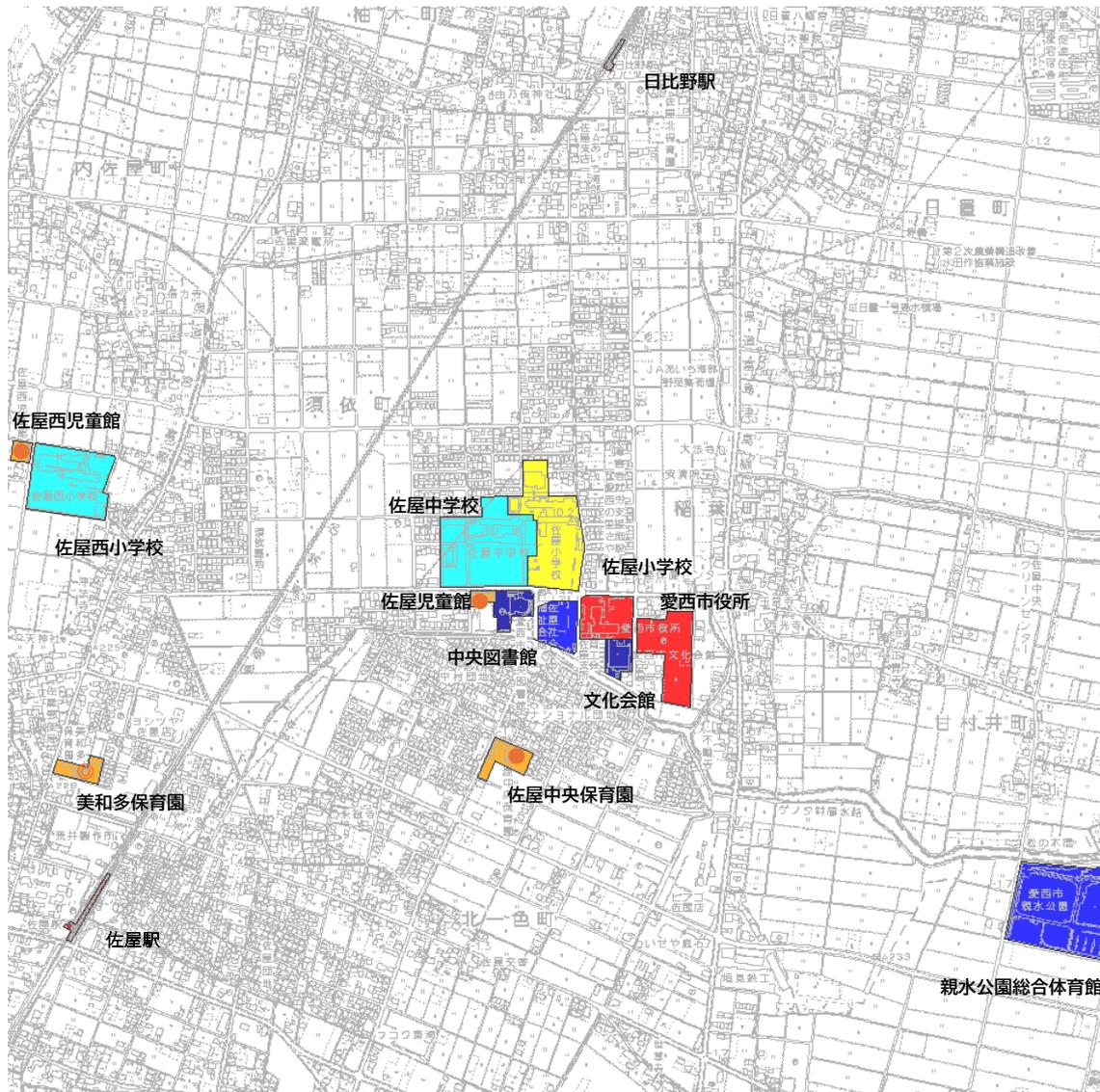
年度	H20	H25	H30	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
児童数	871	671	615	562	577	592	547	544	536	534	521	500
学級数 (通常学級)	25	21	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
学級数 (支援学級)	3	2	6	6	7	8						



※令和7年5月1日現在の推計

(4) 周辺状況

佐屋小学校は、名古屋鉄道日比野駅の南約 1.2 km、名古屋鉄道佐屋駅の北東約 1.2 kmに位置しています。周辺には、西側に佐屋中学校、南側に愛西市中央図書館や愛西市役所などの公共施設があり、東側・北側は住宅地となっています。



<凡例>

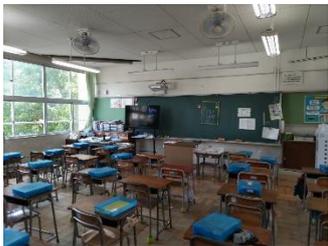
	市役所		小・中学校		生涯学習施設
	市立保育園 児童館		民間保育所		駅

(5) 現況写真

屋外の様子

 <p>A wide shot of a schoolyard with a large, mostly bare dirt area in the foreground and a school building in the background under a clear sky.</p>	 <p>A grassy field with a large pile of colorful items, possibly sports equipment, in the center. A school building and utility poles are visible in the background.</p>	 <p>A wooded area with many trees and a dirt path, appearing somewhat overgrown and natural.</p>
<p>校庭</p>	<p>サヤゴン(築山)</p>	<p>迷いの森</p>
 <p>A sandy play area with several wooden posts and a small structure, surrounded by trees.</p>	 <p>A long, multi-story school building with a distinctive white structural frame on its facade.</p>	 <p>A paved courtyard area between two school buildings, with some blue flowers in the foreground.</p>
<p>遊具エリア</p>	<p>南校舎外観</p>	<p>中庭</p>
 <p>A close-up view of the school building's facade, showing the white structural frame and windows.</p>	 <p>A view of a walkway or underpass structure connecting different parts of the school grounds.</p>	 <p>A view of a large, modern building with a wide set of stairs leading to an entrance, likely an indoor sports field.</p>
<p>北校舎外観</p>	<p>北側渡り廊下</p>	<p>屋内運動場外観</p>
 <p>A view of a gate with a blue fence and a brick wall, leading into the school grounds.</p>	 <p>A view of a gate with a brick wall and a tree, leading into the school grounds.</p>	 <p>A view of a parking lot with a few cars parked, adjacent to a school building.</p>
<p>東門</p>	<p>北門</p>	<p>駐車場</p>

校舎内の様子

 <p>普通教室</p>	 <p>廊下</p>	 <p>学年室</p>
 <p>特別支援学級</p>	 <p>トイレ (未改修)</p>	 <p>トイレ (改修済み)</p>
 <p>職員室</p>	 <p>印刷室</p>	 <p>保健室</p>
 <p>低学年図書室</p>	 <p>図書室 (2階)</p>	 <p>図書室 (3階)</p>
 <p>コンピュータ室</p>	 <p>視聴覚室</p>	 <p>第1理科室</p>

 <p data-bbox="343 555 491 589">第2理科室</p>	 <p data-bbox="751 555 842 589">図工室</p>	 <p data-bbox="1102 555 1251 589">第1音楽室</p>
 <p data-bbox="343 891 491 925">第2音楽室</p>	 <p data-bbox="735 891 858 925">家庭科室</p>	 <p data-bbox="1086 891 1267 925">こころの広場</p>
 <p data-bbox="316 1227 517 1261">東側1階昇降口</p>	 <p data-bbox="692 1227 900 1261">西側2階昇降口</p>	 <p data-bbox="1129 1227 1219 1261">受入室</p>
 <p data-bbox="327 1563 505 1597">北側渡り廊下</p>	 <p data-bbox="703 1563 882 1597">西側渡り廊下</p>	 <p data-bbox="1029 1563 1303 1597">東側渡り廊下(3階)</p>
 <p data-bbox="300 1899 537 1933">屋内運動場体育館</p>	 <p data-bbox="678 1899 916 1933">屋内運動場会議室</p>	

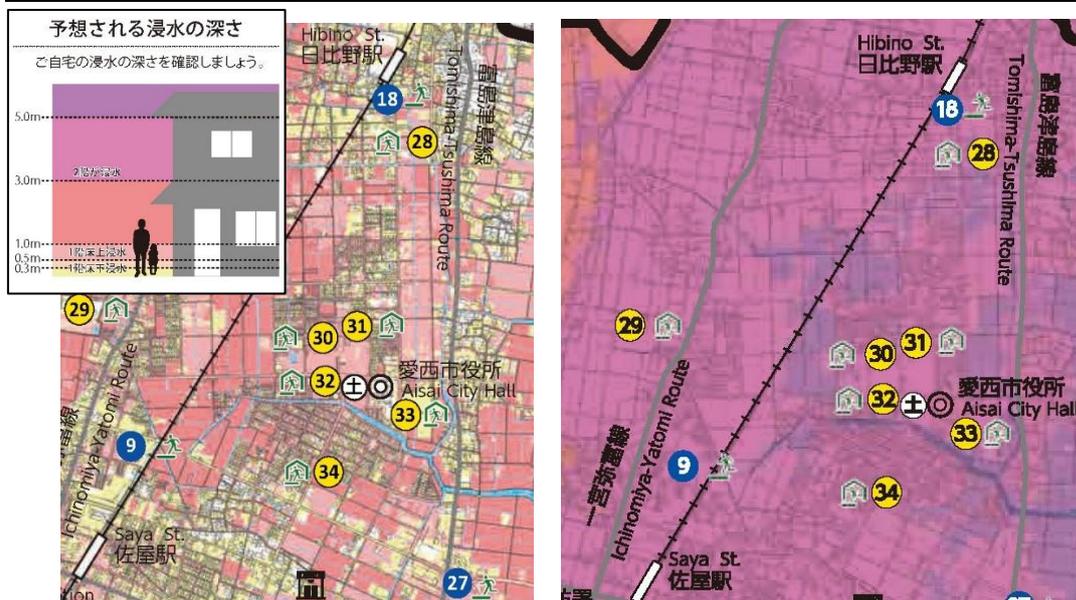
(6) 主な工事履歴

昭和 40 年度	南館東校舎建築工事
昭和 44 年度	南館中校舎増築工事
昭和 46 年度	南館西校舎増築工事
昭和 48 年度	北館西校舎、中校舎増築工事
昭和 49 年度	プール竣工
昭和 53 年度	北館東校舎増築工事
昭和 57 年度	管理棟完成
昭和 63 年度	北館西屋上防水工事
平成 2 年度	南館屋上防水工事
平成 18 年度	耐震補強工事
平成 24 年度	南館東側トイレ改修工事
平成 28 年度	プール修復工事
平成 30 年度	北館東側トイレ改修工事、プール改修工事
令和元年度	普通教室等エアコン設置工事 ICT 機器設置工事、 北館西側トイレ改修工事
令和 2 年度	体育館天井改修工事
令和 5 年度	第 1 音楽室エアコン設置工事

2-2.施設整備に係る条件整理

(1) 敷地概要

住居表示	愛西市須依町東田面 17 番地
敷地面積	23,581 m ²
地域地区	市街化区域、第 1 種中高層住居専用地域、法 22 条区域
建ぺい率・容積率	60%・200%
日影規制	4 時間、2.5 時間、測定面 4 m
接道状況	南側：市道 24 号線、幅員 12.6~13.0m 東側：市道 1083 号線、幅員 5.0~6.1m 屋内運動場西側：市道 1088 号線、幅員 4.5~6.0m ※既存校舎北側の道は学校敷地内
都市設備	排水：公共下水道供用区域 ガス：愛西市ガス協同組合（LP ガス） 電力：中部電力、岐阜電力
ハザードマップ	洪水浸水想定：0.5m~1.0m（計画規模）、1~3m（最大） 高潮浸水想定：3.0m~5.0m 津波浸水想定：1.0m~3.0m（最大）



洪水ハザードマップ（木曽川水系、計画規模）

高潮ハザードマップ

※㊸：佐屋小学校

(2) 施設の老朽化状況

外観写真		建物概要			
	棟名	南校舎			
	建築年	S40 (1965年) / 築 60年			
	構造・階数	RC・3階			
	延床面積	2,532㎡			
	主な諸室	普通教室、特別教室、特別支援学級			
	耐震改修	平成18年に実施			
躯体の劣化状況					
耐力度評点	鉄筋腐食度	かぶり厚さ	中性化深さ	躯体の状況	不同沈下量
3892点	柱：大部分赤錆 梁：膨張 床：膨張	2.73 cm	1.88 cm	ジャンカ多	1/148
<p>・耐力度調査の結果、4500点未満のため「老朽化が著しく構造上危険な状態にある建物」として危険改築の対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中性化が進行しているため、中性化対策が必要 ・赤錆、ジャンカ、ひび割れ、浮きが多く見られるため、大々的な躯体補修が必要 ・不同沈下が進行中の場合は構造体・非構造体の劣化が今後も進行する恐れがある ・雨漏りにより内部で鉄筋の腐食等が進行している恐れがある 					
その他の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・1階床レベルが校庭より低く、1階が浸水しやすい ・防火区画が成立していない ・避難計画が成立していない（階段不足） ・他棟と床レベルが異なっているため廊下に段差が生じている ・塔屋がなく屋上のメンテナンスがしにくい ・教室境がRC壁のため間取り変更が困難 ・最大想定レベルの浸水時には1階が浸水する 					
長寿命化の適正					
<ul style="list-style-type: none"> ・躯体の長寿命化のために大々的な補修・中性化対策等が必要 ・長寿命化改良の補助金を使用できない可能性がある※ ・教室の広さ・位置、浸水、バリアフリー等、改修では根本的な改善が困難 					

※長寿命化改良事業の対象となる建物の条件のうち、「コンクリート強度や不同沈下量、校地環境の安全性等の観点から、長期的に使うことが適切と学校設置者が判断するもの」にあたらぬ可能性がある

外観写真		建物概要			
		棟名	北校舎・西棟		
		建築年	S48（1973年）/築52年		
		構造・階数	RC・3階		
		延床面積	2,050㎡		
		主な諸室	普通教室、学年室、特別教室、給食配膳		
		耐震改修	平成20年に実施		
躯体の劣化状況					
耐力度評点	鉄筋腐食度	かぶり厚さ	中性化深さ	躯体の状況	不同沈下量
3892点	柱：大部分赤錆 梁：大部分赤錆 床：膨張	2.83cm	2.22cm	ジャンカ多	1/110
<ul style="list-style-type: none"> ・耐力度調査の結果、4500点未満のため「老朽化が著しく構造上危険な状態にある建物」として危険改築の対象 ・中性化が進行しているため、中性化対策が必要 ・赤錆、ジャンカ、ひび割れ、浮きが多く見られるため、大々的な躯体補修が必要 ・不同沈下が進行中の場合は構造体・非構造体の劣化が今後も進行する恐れがある ・雨漏りにより内部で鉄筋の腐食等が進行している恐れがある 					
その他の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・防火区画が成立していない ・鉄骨階段が劣化しており、避難の際に危険 ・教室境がRC壁のため間取り変更が困難 ・最大想定レベルの浸水時には1階が浸水する 					
長寿命化の適正					
<ul style="list-style-type: none"> ・躯体の長寿命化のために大々的な補修・中性化対策等が必要 ・長寿命化改良の補助金を使用できない可能性がある※ ・教室の広さ・位置等が改修では根本的な改善が困難であり、新しい教育環境の確保には課題がある 					

※長寿命化改良事業の対象となる建物の条件のうち、「コンクリート強度や不同沈下量、校地環境の安全性等の観点から、長期的に使うことが適切と学校設置者が判断するもの」にあたらぬ可能性がある

外観写真		建物概要	
	棟名	北校舎・東棟	
	建築年	S53 (1978年) / 築 47年	
	構造・階数	RC・3階	
	延床面積	1,498 m ²	
	主な諸室	普通教室、特別教室	
	耐震改修	平成 21 年に実施	

躯体の劣化状況					
耐力度評点	鉄筋腐食度	かぶり厚さ	中性化深さ	躯体の状況	不同沈下量
4065 点	柱：大部分赤錆 床：膨張	3.00 cm	1.55 cm	ジャンカ多	1/141

- ・耐力度調査の結果、4500 点未満のため「老朽化が著しく構造上危険な状態にある建物」として危険改築の対象
- ・中性化が進行しているため、中性化対策が必要
- ・赤錆、ジャンカ、ひび割れ、浮きが見られるため、躯体補修が必要
- ・不同沈下が進行中の場合は構造体・非構造体の劣化が今後も進行する恐れがある
- ・雨漏りにより内部で鉄筋の腐食等が進行している恐れがある

その他の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・防火区画が成立していない ・構造的に危険な改修がされている（図書室） ・避難経路は北校舎西棟の階段を使用するため、単独では避難計画が成立しない ・塔屋、改め口がなく屋上のメンテナンスは北校舎西棟経由になる ・教室境が RC 壁のため間取り変更が困難 ・最大想定レベルの浸水時には 1 階が浸水する

長寿命化の適正
<ul style="list-style-type: none"> ・南校舎、北校舎西棟と比較すると少ないが、躯体の長寿命化のために補修・中性化対策等が必要。図書室の螺旋階段設置部に補強が必要。 ・長寿命化改良の補助金を使用できない可能性がある※ ・教室の広さ・位置等が改修では根本的な改善が困難であり、新しい教育環境の確保には課題がある ・単独では動線が成立しないため、長寿命化する場合は他棟との接続に留意する必要がある

※長寿命化改修事業の対象となる建物の条件のうち、「コンクリート強度や不同沈下量、校地環境の安全性等の観点から、長期的に使うことが適切と学校設置者が判断するもの」にあたらぬ可能性がある

外観写真		建物概要			
		棟名	体育館		
		建築年	S55（1980年）/築45年		
		構造・階数	RC・2階		
		延床面積	1,198㎡		
		主な諸室	体育館		
		耐震改修	平成22年に実施		
躯体の劣化状況					
耐力度評点	鉄筋腐食度	かぶり厚さ	中性化深さ	躯体の状況	不同沈下量
4264点	柱：大部分赤錆 梁：大部分赤錆	1.85 cm	1.10 cm	ジャンカ有	1/318
<ul style="list-style-type: none"> ・耐力度調査の結果、4500点未満のため「老朽化が著しく構造上危険な状態にある建物」として危険改築の対象 ・中性化が進行しているため、中性化対策が必要 ・赤錆、ジャンカ、ひび割れ、浮きが見られるため、躯体補修が必要 ・不同沈下が進行中の場合は構造体・非構造体の劣化が今後も進行する恐れがある 					
その他の課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・道路から1階床レベルまで段差が大きい ・校舎から渡り廊下でアクセスしているためバリアフリー化するには校舎とは別途エレベータが必要 ・最大想定レベルの浸水時には1階が浸水する 					
長寿命化の適正					
<ul style="list-style-type: none"> ・南校舎、北校舎西棟と比較すると少ないが、躯体の長寿命化のために補修・中性化対策等が必要 ・長寿命化改良の補助金を使用できない可能性がある※ ・規模に問題はないため、改修により必要機能は確保可能（バリアフリー化、校舎との接続方法は要検討） 					

※長寿命化改良事業の対象となる建物の条件のうち、「コンクリート強度や不同沈下量、校地環境の安全性等の観点から、長期的に使うことが適切と学校設置者が判断するもの」にあたらぬ可能性がある

(3) 現施設の課題

① 施設全体の老朽化

既存建物の築年数は45年～60年であり、構造部・非構造部とも経年劣化が著しい状態です。学校の運営面や安全面に支障をきたす恐れがあり、建物の使用を継続するためには大々的な躯体補修及び内外装や設備の更新が必要です。



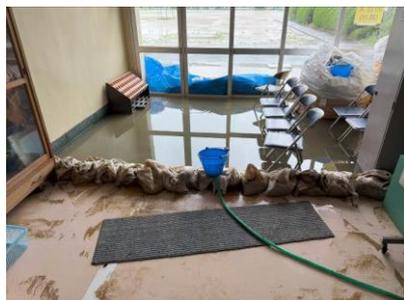
躯体のひび割れ



漏水等による劣化

② 浸水対策

屋内運動場は地盤レベルから1.2m高い位置に計画されていますが、その他の校舎は地盤レベル付近に計画されており、特に南校舎はグラウンドより1階床レベルが低くなっています。そのため、特に南校舎は大雨の際に床上浸水が起きている状況です。また、ハザードマップでは洪水時の浸水想定が最大3mとなっています。大雨の際の浸水対策及び災害時の避難所としての浸水対策の検討が必要です。



大雨時の浸水の様子

③ バリアフリー対応

トイレ改修により車椅子用トイレは設置されていますが、エレベータは未設置となっています。各棟の床レベルが異なっていることから校舎内の各所に基準を超える傾斜のスロープや段差があり、エレベータを設置したとしても全面的なバリアフリー化は困難な状況です。



校舎内の段差



スロープ・エレベータのない渡り廊下

④ 動線計画

敷地の3方に門があり、校舎の昇降口も東西の渡り廊下に分散しているため登下校時や来校者の動線が管理しにくい状況です。また、北校舎と屋内運動場の間に道路上空地があり、道路上空地と校舎の間にはフェンス等が設置されていないため防犯面で課題があります。

来客用車両動線は中学校敷地を經由しており、保護者の送迎動線と中学生の登下校動線が混在している状況です。

校舎内は特別教室が各棟の端部に分散しているため、同一教科の特別教室が離れているなど、使い勝手に課題があります。



フェンスの無い北側道路上空地



道路から校舎への主な動線

⑤ これからの教育への対応

教室に児童の荷物が収まらず、廊下や学年室に児童の荷物が置かれている状況です。ICT化に伴い大型モニターやタブレットの保管、机サイズの拡張もあり、教室面積が不足しています。教室の拡張や多様な学習に対応する柔軟な空間が必要です。また、特別支援学級の増加や通常学級における多様な教育的ニーズのある児童

の増加に対応できる空間の整備も必要です。



モニター



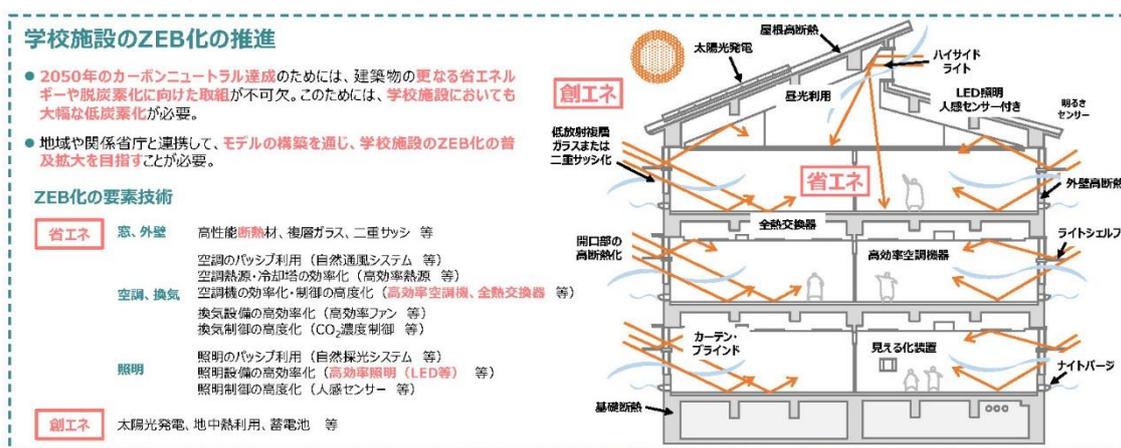
タブレット保管庫



廊下に設置されたロッカー

⑥ 省エネ対策

校舎内の一部に空調設備が設置されていますが、断熱改修は行われていません。環境配慮のためにも、快適な学習環境のためにも建物の高断熱化及び高効率機器や再生可能エネルギーの導入等の省エネ対策が必要です。



エコスクール 環境を考慮した学校施設の整備推進パンフレット（文部科学省）より

⑦ 児童、教職員の生活空間の視点

廊下等の共用部が狭く、教室以外の児童の居場所がない状況です。特に児童のクールダウンスペースや送迎時の待合スペースなどが求められています。また、教職員の休憩スペースがなく、更衣室も倉庫等の一角を利用している状況です。児童、教職員がともに健康的に日々の学校生活を送るため、生活空間としての視点で学校環境の改善を行うことが必要です。

3. 建築コンセプトの検討

3-1. 学校施設に関する上位計画

(1) 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（文部科学省）

文部科学省では、1人1台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実等に向け、新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方及び推進方策について令和4年3月に報告書を取りまとめています。この報告書のなかで、新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）と学校施設の在り方として5つの姿の方向性が示されています。

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）

Schools for the Future

「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する
新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）

【**学び**】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、

柔軟で創造的な学習空間を実現

【**生活**】 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現

【**共創**】 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現

【**安全**】 子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現

【**環境**】 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

(2) 2050年カーボンニュートラルの実施に資する学校施設のZEB化の推進について」（文部科学省）

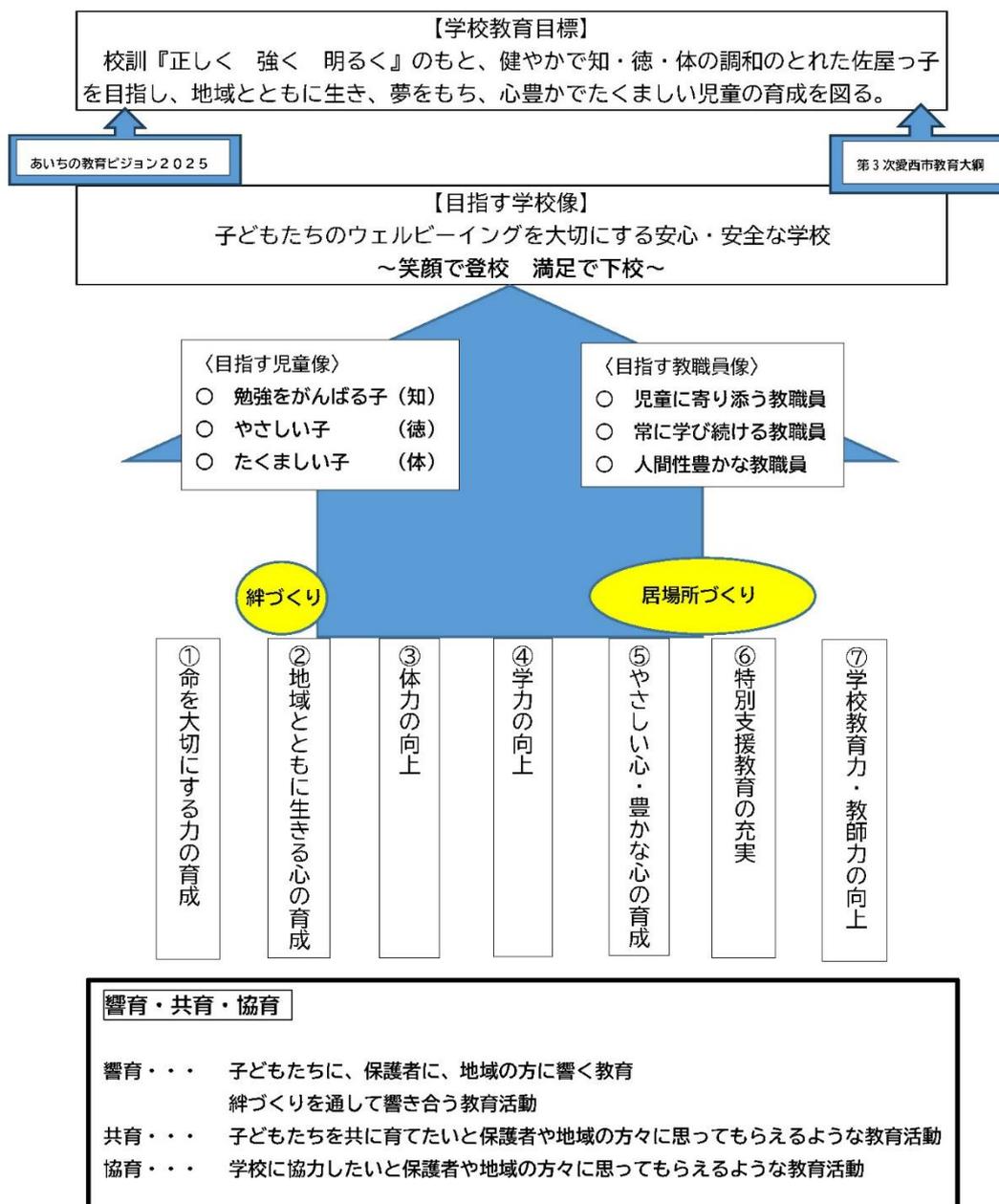
学校施設的环境対策方針は、1994年から「環境を考慮して設計・建設され、環境を考慮して運営され、環境教育にも活かされる学校施設」をエコスクールとして示され、1997年からはそのパイロット・モデル事業を実施するなど、エコスクールの整備充実が図られてきました。一方で、長寿命化改修をはじめとした老朽化対策が急務である中で、GIGAスクール構想による1人1台端末のもと、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現できる教育環境の確保が求められているという課題がある中で、文部科学省では学校施設のZEB化の推進について令和5年3月に報告書を取りまとめています。この報告書では学校施設のZEB化推進の基本的な考え方を示すとともに、新增改築では原則ZEB Oriented[※]相当以上、改修では費用対効果が高い取組から段階的・計画的にZEB化を図るとされています。

※ZEB Oriented:用途に応じて30~40%以上の省エネルギーを図り、かつ、省エネルギー効果が期待されているものの、建築物省エネ法に基づく省エネルギー計算プログラムにおいて現時点で評価されていない技術を導入している建築物のうち1万㎡以上のもの

3-2.佐屋小学校の教育目標等

佐屋小学校は学校教育目標と目指す学校像として以下の目標を掲げています。

令和7年度 愛西市立佐屋小学校グランドデザイン



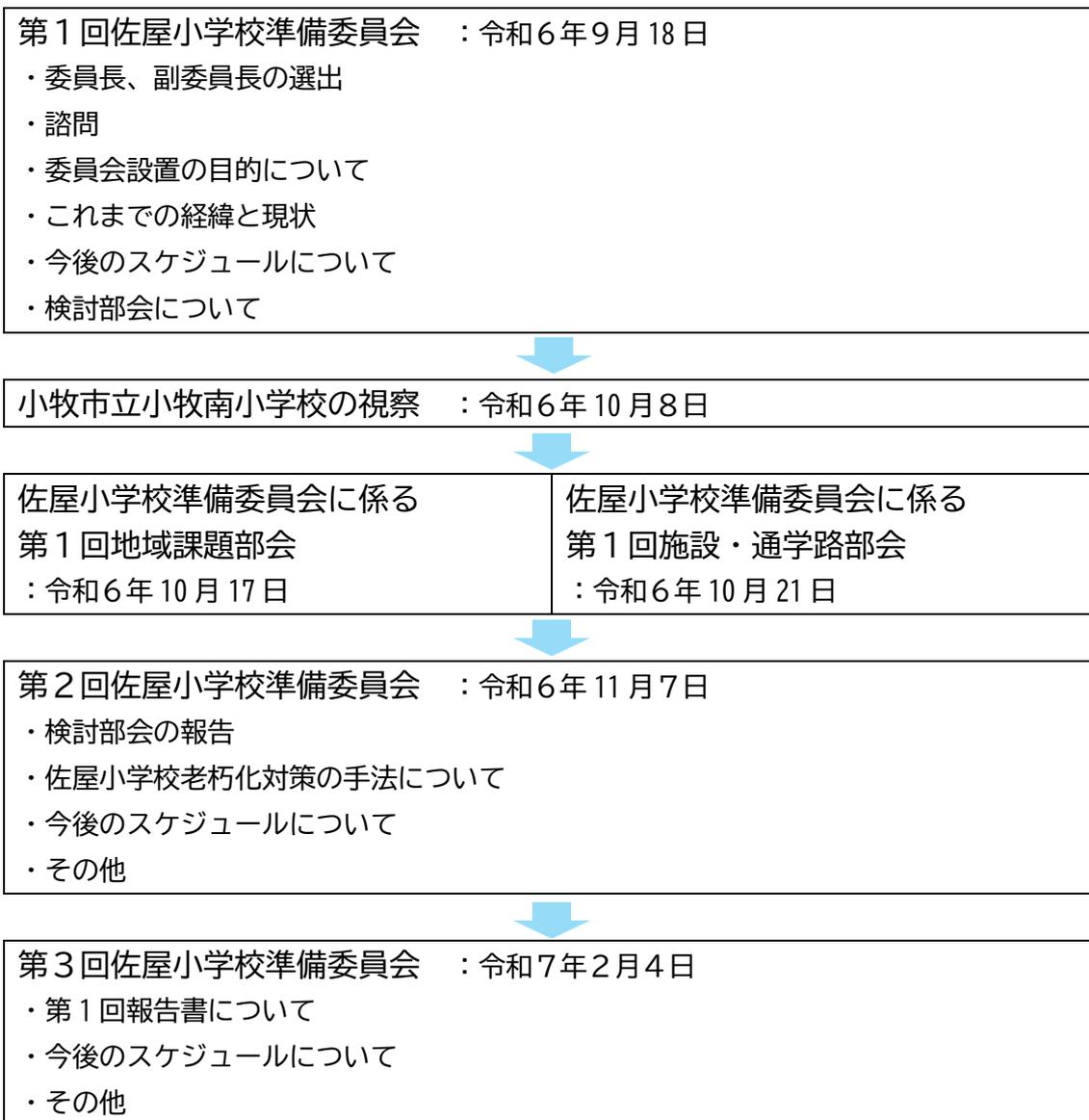
出典：佐屋小学校ホームページ

3-3.佐屋小学校準備委員会の設置および教職員アンケートの実施

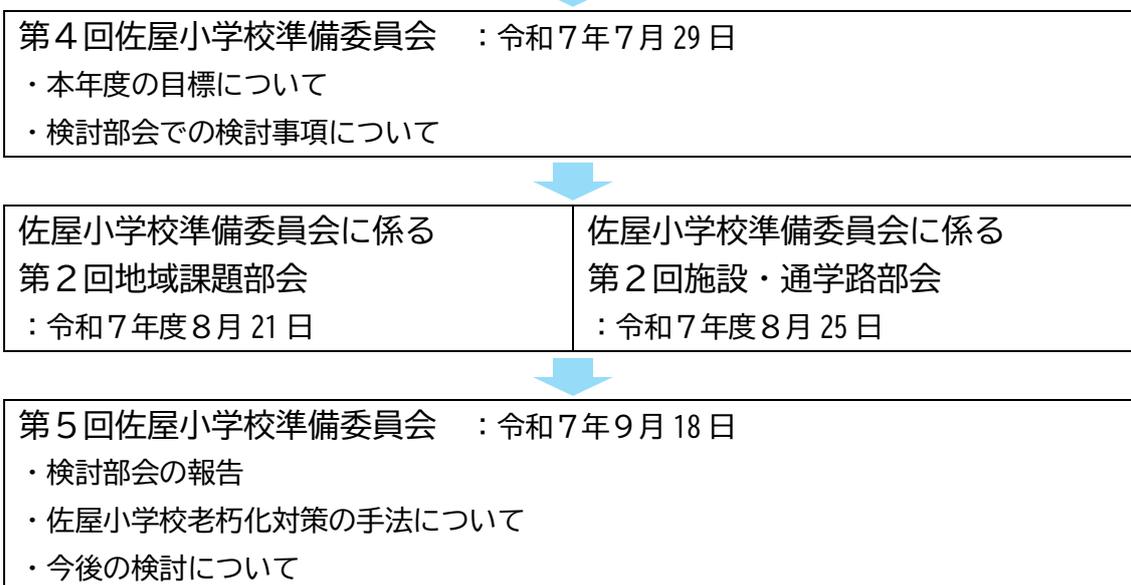
(1) 佐屋小学校準備委員会

佐屋小学校の学校施設等に関すること、地域課題等に関することを中心に審議するため佐屋小学校準備委員会が設置され、学校施設に必要な機能等について検討されました。

<令和6年度の経緯>



<令和7年度の経緯>



<意見概要>

学校施設に必要な機能については、タブレット等の収納も考慮したゆとりある教室環境や収納の確保、適応指導教室やクールダウンスペース等の多様な教育的ニーズのある児童への対応、木のぬくもりや採光・通風の確保、空調設置等の室内環境に関する意見、学年で集まれる場所や異学年交流できる図書室等、多岐に渡る意見が挙げられました。また、学校内の児童の待機スペースや車両動線等、保護者の車両での送迎を考慮した計画とするよう要望が挙げられました。

地域の学校としての機能については、他の公共施設と近接している立地もあり、生涯学習の場としての利用より避難所運用につながる地域開放や防災機能の充実が主に挙げられました。また、安全対策として浸水対策やバリアフリー化等の現施設の課題が挙げられました。

(2) 教職員アンケート

佐屋小学校に勤務する教職員向けに、既存施設の課題や継承したいところ、学校施設整備にあたり大切だと思うこと等について、アンケートを行いました。

既存施設については施設の老朽化による不具合やセキュリティ、大雨での浸水が課題として挙げられました。継承したいところについては校庭の広さ、遊具、緑豊かな環境の充実がもっとも多く上げられました。学校施設整備にあたり大切だと思うことの上位3つは「きめ細かい指導や、多様な学習が可能な、柔軟性を持った学校施設」「防災・防犯に配慮した学校」「多様な教育的ニーズのある児童への対応」でした。次いで、「運動施設の充実」「ICT環境の整備」が多く選択されました。

3-4.建築コンセプト

建築コンセプト

学校施設として
みんなのウェルビーイングを大切にする安心・安全な学校
地域の学校として
学校と地域の絆を深める、みんなが行きたくなる学校

5つの方向性と具体的方策例

学び	ゆとりあるスペースの確保と多様な教育的ニーズに対応した居場所づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 教育に対応する教室の整備 ・ 十分な収納スペースの確保 ・ 様々な特性の子ども達に対応する柔軟性のある教室 ・ 不登校児童の支援やクールダウンスペース等、選択肢のある居場所づくり 等
生活	快適な室内環境と絆を育む交流空間づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然採光・通風の確保や木のぬくもりを感じる内装 ・ 空調設備の整備やトイレ・手洗いの充実、各学年の更衣室 ・ 学年で集まれるスペースや異学年交流を促す広い図書室 ・ 遊具の充実した広い校庭、校庭に出やすいまとまった昇降口 ・ 教職員のパフォーマンスを高める執務環境・リフレッシュ空間 等
共創	災害時の連携につながる地域と学校の接点づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民と交流が図れる多目的ホール ・ 保護者への引き渡しが行える動線計画と待機スペース ・ 避難所利用するエリアを中心とした地域開放の計画 ・ 放課後や長期休暇中の子ども達の居場所づくり 等
安全	日常から災害時まで安心・安全に寄与する機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化対策と維持管理しやすい施設づくり ・ 防犯カメラやフェンスの設置等の防犯対策 ・ だれでもトイレやエレベータ、スロープの整備等のバリアフリー化 ・ 地盤沈下や浸水など地域の特性にあった災害対策 等
環境	緑豊かな環境の継承と災害時の避難所機能に資する環境対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 維持管理しやすい植栽選定 ・ 太陽光発電等、災害時にも機能する省エネ設備の導入 等

4. 基本方針の検討

4-1. 検討方針

工事期間中も学校運営を継続する居ながら工事を前提とし、改築と長寿命化改修双方のメリット・デメリットを整理し、老朽化対策の方針を検討します。

4-2. 改築・長寿命化改修の比較

(1) 改築・長寿命化改修の特徴

改築と長寿命化改修は一般的に以下のような特徴があります。長寿命化改修は躯体補修や内外装及び設備の更新を行うことで生活環境の改善や省エネ性能の向上を図ることが可能です。一方で躯体の構造条件から間取りを大きく変えることが困難なため、部屋の広さや動線計画の改善効果は限定的となります。また、一般的には全面改築より長寿命化改修の方が整備コストは安価ですが、劣化状況や仮設校舎の要否など事業費全体でのコストメリットの有無に留意が必要です。

	改築	長寿命化改修
学び	・これからの教育に適した広さや配置を計画できる	・間取り変更により利便性の向上は可能(ただし耐震壁の配置等により制限がある) ・基本的に教室の広さを変えることができない
生活	・健やかな生活環境を計画できる	・内装や設備を改修することで生活環境の改善は可能(ただし採光・通風等の建物形状によるものは改善が難しい)
共創 (地域)	・地域への日影やプライバシーに配慮した計画が可能(ただし現状と変化することで影響は出る。規模が増加した場合は悪化する可能性がある) ・地域開放等の地域利用を想定した計画が可能	・日影等の既存不適格の場合、改善が困難 ・間取り変更により地域開放区画の形成は可能(ただし耐震壁の配置等により制限がある)
安全	・必要な耐震性を確保した建物の計画が可能 ・必要な防災機能を確保した建物の計画が可能(ハザードに配慮した配置・レベル設定も可能) ・バリアフリーに配慮した建物の計画が可能	・補強、補修により耐震性・耐久性を向上可能(ただし既存躯体の劣化が激しいとコストがかかる) ・設備による防災機能の向上は可能(浸水レベル等の根本的な建物位置・高さによる対応は不可) ・改修やEVの増築によりバリアフリー化は可能(ただしスロープの設置でスペースが必要となる可能性がある)
環境	・時代に即した省エネ、創エネ性能を確保可能	・断熱、設備改修により省エネ性能の向上は可能 ・発電設備の設置は構造条件による
コスト	・長寿命化より工事費は高い ・配置によっては仮設校舎が不要(補助金：危険改築 補助率 1/3)	・改築に対する工事費の比率：0.6(ただし劣化状況により増加する可能性あり) ・仮設校舎が必要(補助金：長寿命化改良 補助率 1/3)

(2) 改築・長寿命化改修の比較

佐屋小学校は棟ごとの築年数が異なるため、以下のパターンで改築・長寿命化改修の比較を行いました。なお、改築の建物配置は一例であり、詳細は基本計画で検討します。

	【A案】全校舎長寿命化	【B案】南校舎のみ改築、他長寿命化	【C案】体育館のみ長寿命化、他改築（仮設校舎あり）	【D案】体育館のみ長寿命化、他改築（仮設校舎なし）	【E案】全校舎改築（仮設校舎なし）	
配置イメージ						
		※改築の建物配置は一例です	※改築の建物配置は一例です	※改築の建物配置は一例です	※改築の建物配置は一例です	
新しい教育環境	学習	新しい教育に適した広さ・配置にできない	校舎の過半が新しい教育に適した広さ・配置にできない 体育館と校舎を近くに配置可能	新しい教育に適した広さ・配置にできる 体育館と校舎を近くに配置可能	新しい教育に適した広さ・配置にできる 体育館と校舎の距離が遠くなる	新しい教育に適した広さ・配置にできる 体育館と校舎を近くに配置可能
	生活	内装・設備改修により環境改善は可能 動線の分かりにくさは改善できない	内装・設備改修により環境改善は可能 動線の分かりにくさは改善できない	健やかな生活環境を計画できる	健やかな生活環境を計画できる	健やかな生活環境を計画できる
	共創	地域との関係性は既存と変わらない	地域との関係性は既存と変わらない	地域との関係性は既存と変わらない	校舎と他公共施設との距離が近くなる	校舎と他公共施設との距離が近くなる
	安全	大々的な補強・補修が必要 全体のバリアフリー化が困難 浸水対策が困難 杭が支持地盤に到達していないため不同沈下が進行する恐れがある	大々的な補強・補修が必要 体育館のバリアフリー化は課題 北校舎は浸水対策困難 既存建物は不同沈下が進行する恐れがある	必要な耐震・防災性能を確保できる 体育館のバリアフリー化は課題 浸水を考慮した床レベル設定ができる 既存建物は不同沈下が進行する恐れがある	必要な耐震・防災性能を確保できる 体育館のバリアフリー化は課題 浸水を考慮した床レベル設定ができる 既存建物は不同沈下が進行する可能性がある	必要な耐震・防災性能を確保できる 校舎全体のバリアフリー化可能 浸水を考慮した床レベル設定ができる
	環境	断熱、設備改修により性能の向上は可能	断熱、設備改修により性能の向上は可能	時代に即した省エネ、創エネ性能を確保可能	時代に即した省エネ、創エネ性能を確保可能	時代に即した省エネ、創エネ性能を確保可能
建設・改修コスト【比率】	長寿命化改修費用、仮設校舎費用 ※長寿命化改良の補助金は使用できない可能性あり 【1.00】	改築費用（南校舎） 長寿命化費用（北校舎、体育館） 仮設校舎費用 解体工事費用（南校舎） ※長寿命化改良の補助金は使用できない可能性あり 【1.23】	改築費用（校舎）、 長寿命化改修費用（体育館） 仮設校舎費用、解体工事費用（校舎） ※長寿命化改良の補助金は使用できない可能性あり 【1.50】	改築費用（校舎）、 長寿命化改修費用（体育館） 解体工事費用（校舎） ※長寿命化改良の補助金は使用できない可能性あり 【1.18】	改築費用、解体工事費用 【1.23】	
概算工期	合計 40 ヶ月 ※改修中は体育館使用不可 ※工事中のグラウンド使用範囲制限有 ※新校舎使用開始 28 ヶ月以降	合計 52 ヶ月 ※改修中は体育館使用不可 ※工事中のグラウンド使用範囲制限有 ※新校舎使用開始 40 ヶ月	合計 54 ヶ月 ※改修中は体育館使用不可 ※工事中のグラウンド使用範囲制限有 ※新校舎使用開始 42 ヶ月	合計 41 ヶ月 ※改修中は体育館使用不可 ※工事中のグラウンド使用範囲制限有 ※新校舎使用開始 25 ヶ月	合計 41 ヶ月 ※体育館使用制限なし ※工事中のグラウンド使用範囲制限有 ※新校舎使用開始 25 ヶ月	

4-3.佐屋小学校準備委員会における検討

準備委員会では改築・長寿命化改修の比較について、安全面や部屋の広さからE案を基本方針として推奨するという意見にまとまりました。

【各案についての意見】

- ・ 南校舎は改築が必要。
- ・ コストに大きな差がないなら改築とし良い環境を整えてほしい。
- ・ 体育館と校舎が隣接している方が良い。
- ・ 南側が主要道路なのでE案で南側に駐車場があると良い。
- ・ 仮設校舎を使用する案は引越しが増え、学校の負担である。
- ・ D案は運動会等のイベント利用が行いにくい

【今後の検討についての意見】

- ・ 周辺施設と機能が被らないようにした方が良い。
- ・ 中学校への動線や送迎動線と中学生の動線を考慮してほしい。
- ・ 将来中学校が小学校敷地側に建つ可能性も想定される。
- ・ 迷いの森やサヤゴンの保存を検討してほしい。
- ・ 工事中の負担・不便が少ないようにしてほしい。
- ・ 将来の柔軟性を確保した計画としてほしい。

4-4.基本方針

浸水や不同沈下等の既存施設の課題は長寿命化改修での改善が困難であり、災害時の避難所としての安全性を確保するためには改築が必要と考えます。また、ゆとりある教室環境の確保やまとまった交流空間の確保のためには既存校舎の改修のみでは対応できず、一部改築や増築が必須となります。仮設校舎の費用も考慮すると総事業費では長寿命化改修と改築に大きな差はなく、一部改築や増築を含む長寿命化改修となる場合、長寿命化改修の方が費用は高くなる可能性もあります。

建築コンセプトを実現する学校施設を整備するために「E案：仮設校舎を使用しない全面改築」を基本方針として決定しました。なお、具体的な校舎配置は基本計画にて検討します。



【参考資料】

■教職員アンケート結果

【1】 既存校舎に対するアンケート

■実施期間：2025年6月25日～7月2日

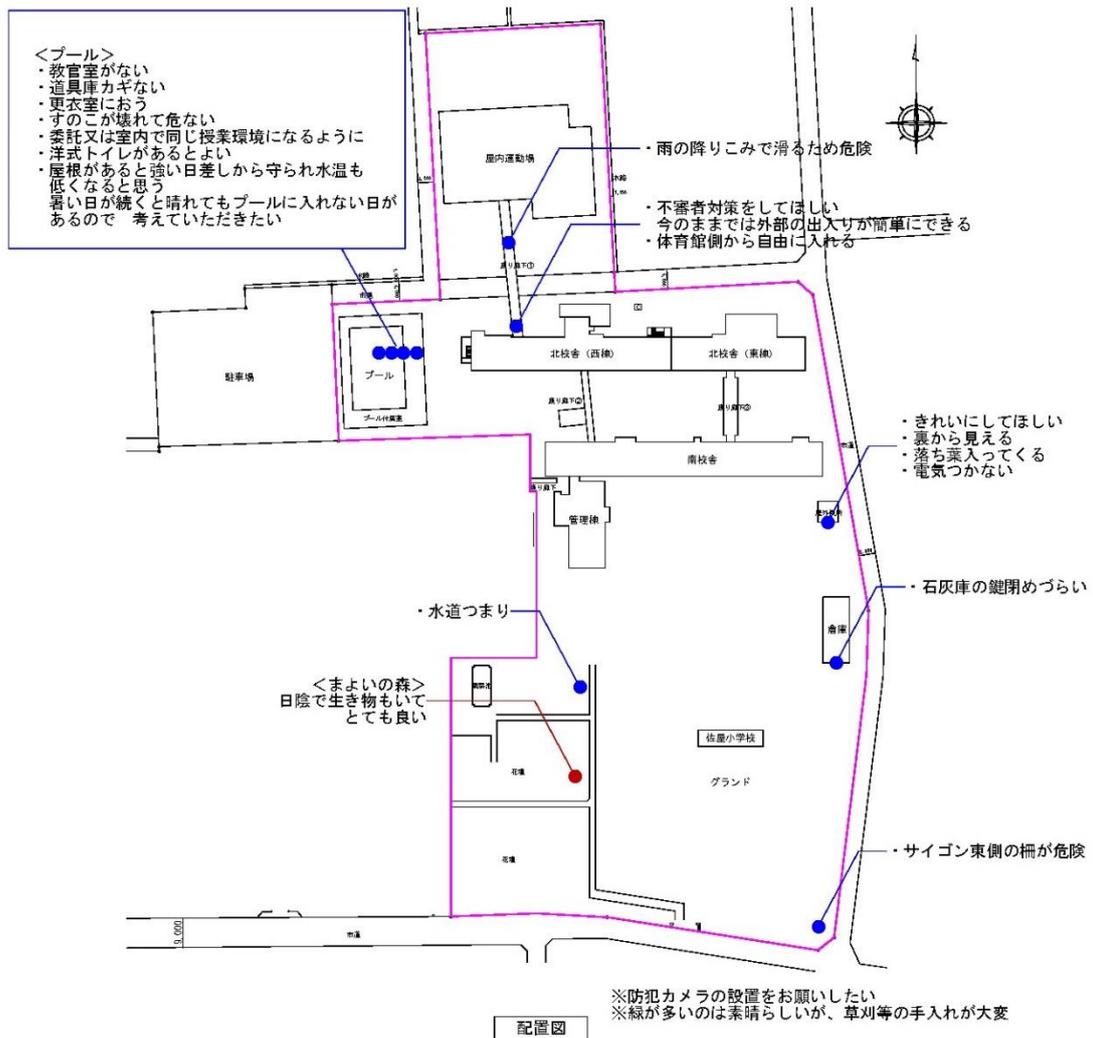
■対象：佐屋小学校に勤務する教職員

■実施方法：既存平面図、配置図上に使いやすい場所・使いにくい場所の印をつけてもらい、理由も記載いただく。

■実施結果

<屋外施設について>

使いやすい場所としては迷いの森が挙げられました。使いにくい場所として、プールに関するご意見と校庭設備の老朽化による不具合のご意見が多くありました。また、体育館側から校舎へのセキュリティについても改善要望がありました。



【2】 これからの学校施設に対するアンケート

■実施期間：2025年6月25日～7月2日

■対象：佐屋小学校に勤務する教職員

■実施方法：フォームにて、自由記述式と選択式の設問によりアンケート実施。

■回答数：17件

■実施結果

(1) 佐屋小学校の特色、良いところ、継承したいところ（自由記述）

校庭の広さ、遊具、緑豊かな環境の充実がもっとも多く上げられました。子ども達のお気に入りとして「サヤゴン」の継承要望が多く上がりました。その他、歴史が感じられる、学年室等の施設の充実などが挙げられました。

校庭に関して（10件）
<ul style="list-style-type: none"> ・校庭が広い ・遊具が充実している ・緑豊か（迷いの森、道草くん） ・サヤゴン
施設に関して（4件）
<ul style="list-style-type: none"> ・学年室等の収納箇所が充実している ・理科室、音楽室が第2まである ・立派な体育館
学校の歴史に関して（3件）
<ul style="list-style-type: none"> ・随所に卒業生の作品があり歴史が感じられる 等
運営に関して（2件）
<ul style="list-style-type: none"> ・教員同士のコミュニケーションが盛ん ・多様な児童に対する人的配置
中学校との関係（1件）
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校と隔たりなく隣接している

※挙げられた項目を1件とカウントしています。



迷いの森

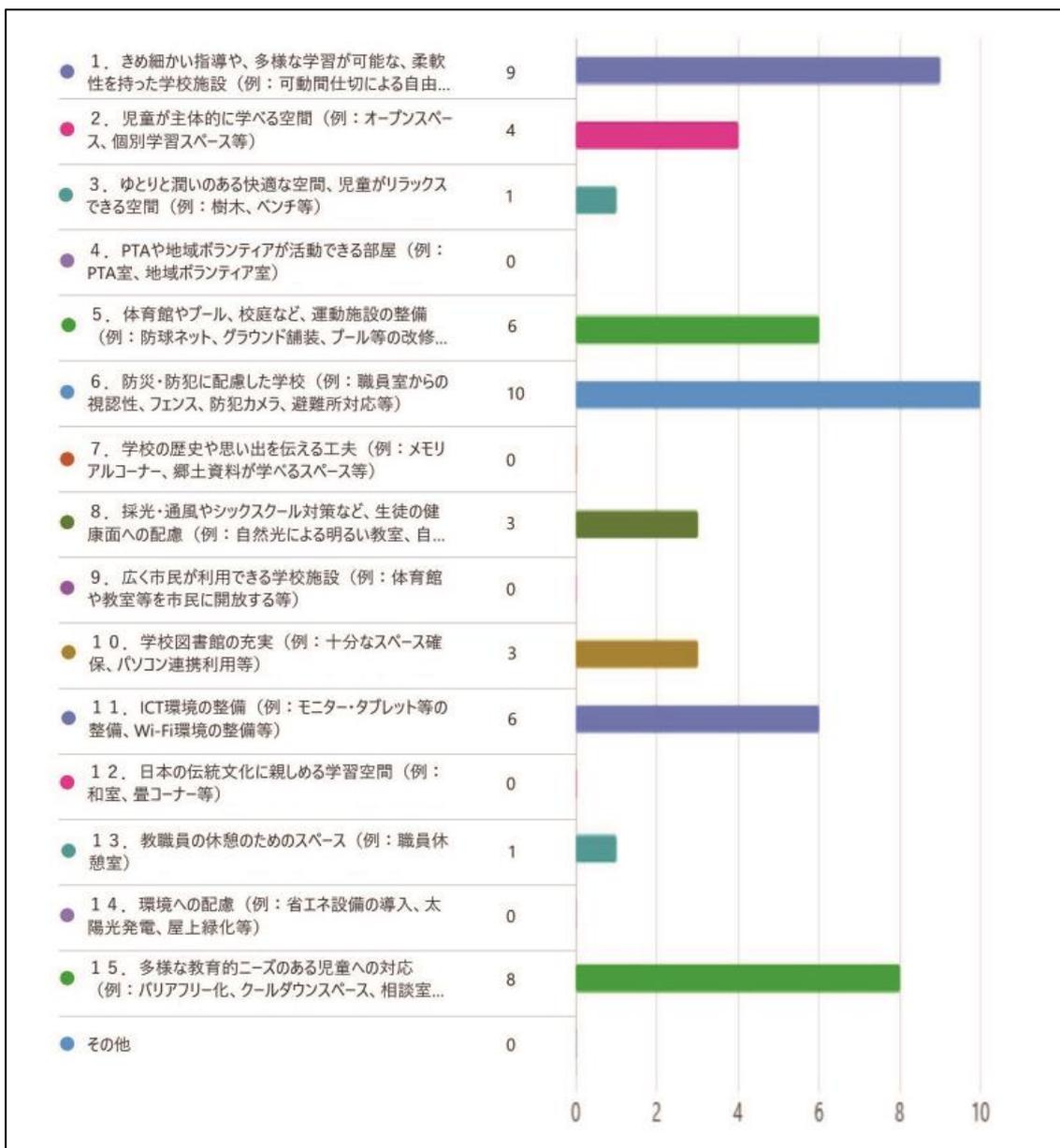


サヤゴン

(2) 学校施設を整備するにあたり大切だと考えること（3つまでの選択式）

上位3つは「きめ細かい指導や、多様な学習が可能な、柔軟性を持った学校施設」「防災・防犯に配慮した学校」「多様な教育的ニーズのある児童への対応」でした。次いで、「運動施設の充実」「ICT環境の整備」が多く選択されました。また、具体的なご意見として、自由に使用できるオープンスペースの設置や防犯カメラ等の設備の設置等が挙げられました。

集計結果



具体的意見

防犯について
・電気錠、防犯カメラの設置（いじめ防止としても）、フェンスの設置等
教室環境について
・モニター、Wi-Fi の改善 ・全部屋の空調整備 ・主体的・対話的な学びを大切にするためには教室が広く、自由に使用できる空間が必要 ・特性がある子どもに対する教育支援として可動間仕切りによる自由な間取りが必要 ・仕切りや小部屋がたくさんあると良い ・子ども達が遊び・話し合い・学び合いができるオープンスペースがあると子ども達同士の関わりが増える ・学習活動に適した照明設備
学校図書館について
・明るい場所にしてほしい ・自然と他学年との交流ができる空間となってほしい ・行きたいと思える素敵な空間にしたい
その他
・不登校児童等の対応ができる柔軟性の高い部屋（職員室の近く） ・屋内プール、空調付き体育館、屋根付きの運動場 ・季節等にあつた災害対策 ・バリアフリー化、エレベータ設置 ・全ての項目を網羅した学校となることが大切